

4段階評価 4 できている 3 ほぼできている 2 あまりできていない 1 できていない

《学校の教育目標 心豊かで、知性にすぐれ、たくましい体をもった実践力ある子どもの育成》

重点目標		重点目標達成の手段	具体的目標や取組	結果の分析・考察及び改善策	評価		学校関係者評価コメント
					職員	関係者	
よく考え、進んで学ぶ子ども	1 学力の確実な定着と向上	① 日常授業の改善・充実	1 教師が話し過ぎず、児童が主体的に考えることができるように工夫する。	○授業の中で、意図的に児童が考える時間を確保していく。 ○ICTを効果的に活用していく研修を深めていく。	3	3	○ICTの活用が進んでいると感じる。 ○タブレットに文字を打ち込む姿が多く見られ、感心した。 ○めあてを明確にすることで児童の主体性も増すと思うので継続してほしい。 ○45分の授業でどこを教えて、どこを考えさせるかなど計画を立てて授業することを継続してほしい。 ○話す、聞く、書くなど発達段階に応じて指導を継続してほしい。 ○考える活動も今後大切な力になると思うので、継続して取り組んでほしい。 ○発達段階に応じて、児童に考えさせる授業が多かった。今後、児童に必要な力は、「自分で考えること」であると思うので、継続して指導してほしい。 ○読書から得られる、知識、想像力は児童にとって大変大切なことだと思うので、今後も継続して読書活動に取り組んでほしい。 ○各地区でどのような行事が行われているかを再確認することが、さいと学をより深い学習にすると感じる。
		② 学習技能・学習習慣の確実な定着	4 授業中に、「聞く」・「書く」・「話す」・「調べる」活動についてけじめをつけるように指導し、学び方を身に付けさせる。		3	4	
		③ 読書活動の充実	5 家読の取組や図書貸出しをとおして、読書を推進する。		3	3	
		④ 「さいと学」「キャリア教育」の取組の充実	6 「さいと学」・体験活動・子ども臼太鼓踊りの取組を充実・改善しながら、地域の文化や産業に目を向けさせる。	○授業中に、「聞く」・「書く」・「話す」・「調べる」活動についてけじめをつけてできるように、発達段階に応じて確実に指導していく。 ○発達段階に応じた本の選定や、様々な分野の本からより広い視野の育成を目指す。 ○現在の取組を継続しつつ、地域人材を活用しながら、穂北の各地区ではどのような行事等が行われているかを職員が再認識し、児童にそのよさを伝えていくことで、地域の学習への意欲付けとする。	3	3	
協力し合い、人を思いやる子ども	2 豊かな心を育む教育の推進	① 道徳教育・人権教育の充実	7 道徳の時間において、児童が自分事として考え、話し合うことができるように工夫する。	○道徳の授業では、形式にとらわれず、児童が自分事としてとらえる授業展開を工夫し、価値についてより深く考えさせる。 ○友達を思いやる「ふわふわことば」への取組を継続し、ほめてのばす指導を行う。	3	3	○道徳の授業では、自分事としてとらえる指導を工夫してほしい。 ○友達等にやさしい言葉かけや思いやりのある行動ができたときは褒めながらのばしてほしい。 ○「あのねカード」を活用した児童理解を継続してほしい。併せて、不登校傾向の児童への配慮も継続してほしい。 ○個別指導、特別支援教育のさらなる充実をお願いしたい。 ○穂北小の児童は、よくあいさつをする。現在では、知らない人にあいさつをすることが難しい面もあるが、せめて、自分が知っている人には、元気よくあいさつをしてほしいと願っている。 ○自分が悪いときには、「ごめんなさい」が素直に言えることも大切だと感じる。 ○特別支援学級の児童も、先生の指導のおかげで生き生きと活動している様子が見えてうれしく思った。
			8 友達や周りの人にやさしい言葉をかけたり、手伝ったりする思いやりのある児童の育成を目指す。		3	3	
		② 心を育む日常指導の充実	9 気持ちのよい挨拶や返事ができるようにする。	○日常指導や「あいさつ運動」等の指導により、地域の人も含めて相手に聞こえる声であいさつができるようにする。 ○「おはようございます」、「さようなら」に限らず、会釈や「ごめんなさい」など、自分の気持ちを言葉や態度で表現できるように指導をしていく。	3	3	
			10 「ありがとう」や「ごめんなさい」が言えるように指導する。		3	3	
			11 「あのねカード」を活用して、一人一人の気持ちに寄り添った教育相談を行い、いじめ防止に向けた取組を充実させる。		3	4	
		③ 個に応じたきめ細かな支援の充実	12 通常の学級を含む個別に支援を要する児童については、全職員で共通理解し、よりよい支援を行っていく。	○特別支援教育の視点を持ち、個に応じた指導を今後も丁寧に行っていく。	3	4	
ねばり強く、たくましい子ども	3 体力向上と健康教育の推進	① 運動量を確保した体育の授業と日常運動の推進	13 向上させたい運動能力を意識し、運動量を確保し、学年に応じた体育の授業と指導法の工夫を行い、児童の体力の向上を図る。	○体力テストの結果を中心に、スクールスポーツプランの内容も考慮しながら、児童自身が自分の体力を意識できるように教科体育の工夫や、日常生活での運動への啓発も行う。	3	4	○運動の領域で、自分が伸ばしたいのはどこなのかを考えさせて、さらに体力を伸ばしてほしい。 ○生活リズムの定着は難しい課題であると思うが、児童の成長には欠かせない事柄のため、保護者と協力して取り組み続けてほしい。 ○児童のメディアへの向き合い方は、家庭でしっかり保護者が管理することが大変重要だと感じる。難しい課題だが、保護者がわが子としっかり向き合っていく必要があると思う。 ○むし歯の治療率については、今後も啓発を続けてほしい。
		② 基本的生活習慣の定着（早寝・早起き、朝ご飯、メディアコントロール）	14 保健だより、学校保健委員会を活用し、保護者への情報発信を積極的に行い、望ましい生活リズム（早寝・早起き、朝ご飯、メディアコントロール）を定着させる。	○児童の望ましい生活リズムの形成については、保護者と協力して行う。保健だより、学校保健委員会、学級通信等を活用し、保護者への啓発を図る。	3	3	
		③ 健康の維持増進と意識の向上を図る取組の推進	15 保護者に啓発を行い、むし歯の治療率を向上させる。	○むし歯の治療率を上げるために、保健だより、学級通信等を活用し、保護者への啓発を図る。	3	3	

【総評】

1年を通して、穂北小学校の教育活動を参観したり、参加させてもらったりしたが、先生方の熱心な取組のおかげで、いい子どもたちが育っていると感じる。大変、ありがたいことである。また、地域と連携しての行事、児童のがんばりがよく伝わってくる行事、PTA活動と学校、家庭、地域がバランスよく連携した教育活動がなされていると感じる。中学校は閉校してしまうが、今後も、小学校がこのように地域の文化・伝統を継承していけるように教育活動をしてもらいたい。そのために、地域、保護者も精一杯協力していこうと思う。